

本書の掲載内容に下記の誤りがございました。ここに訂正させていただきますとともに深くお詫び申し上げます。

頁	箇所	誤	正
237	解説 設問 2	L型ブラケット	三角ブラケット (A型ブラケット)
332	下から2行目～	※「配管の流量については」で始まる1文を次のものに差し替えます。	配管の流量については、各階設置個数が1個なので、フート弁から図のa点まで、すべて流量は 130 (ℓ/min) になります。
333		<p>※次のように訂正します。</p> <p>また、配管径については、a b間のみ40Aとなっています。</p> <p>従って、a～e間は流量が同じではありますが、a b間のみ配管径が異なり、摩擦損失水頭が異なるので、a～b、b～eと区切ります。</p> <p>・ a～b</p> <p>配管径が40A、流量が130ℓ/minなので、表1より、100m当たり9.5mとなり、 $1.5 + 0.5 = 2.0$mでは、 $2.0 \times \frac{9.5}{100} = \mathbf{0.19m}$ となります。</p> <p>・ b～e</p> <p>配管径が50A、流量が130 (ℓ/min) なので、100m当たり2.9mの配管摩擦損失水頭となります。</p> <p>よって、$6 + 4 + 4 + 2 + 4 = 20$mでは、 $20 \times \frac{2.9}{100} = \mathbf{0.58m}$ となります。</p> <p>以上のほか、問題の条件にある、管継手及び弁類の摩擦損失水頭の3mを加えたものが、a～e間全体の配管摩擦損失水頭になります。</p> <p>従って、全体の式は次のようになります。</p> $2.0 \times \frac{9.5}{100} + 20 \times \frac{2.9}{100} + 3$ $= 0.19 + 0.58 + 3 = \mathbf{3.77m}$ <p>≒ 3.8m (問題の条件より、四捨五入して小数点第1位まで)</p> <p>③ 落差 (h₃)</p> <p>落差は垂直方向のみで、水平配管の長さは考慮する必要はありません。</p>	
334		<p>※下から5行目以降を次のように訂正します。</p> <p>なお、本試験では、下のような両側とも書かれた図で出題されることもあります。</p> <p>この場合、a～b間は配管径が40Aで流量130ℓ/min、b～c間は配管径が50Aで流量が130 (ℓ/min)、c～e間は、配管径が50A、流量が260 (ℓ/min) で計算します。</p> <p>計算すると、a～b間が0.19m、b～c間が0.174m、c～e間が1.484m となります。これに、問題の条件にある管継手及び弁類の摩擦損失水頭の3mを加えたものが、a～</p>	

		<p>e間全体の配管摩擦損失水頭になるので、$0.19 + 0.174 + 1.484 + 3 = 4.848 \text{ m} \approx 4.8 \text{ m}$ が配管摩擦損失水頭 h_2 になります。</p> <p>よって、全揚程 (H) は、$H = h_1 + h_2 + h_3 + 1.7$</p> <p>$= 3.6 + 4.8 + 13.5 + 1.7$</p> <p>$= 38.9 \text{ (m)}$ となります。</p>			
335	設問2の解答欄 h_2	計算式	$2.0 \times \frac{9.5}{100} + 20 \times \frac{2.9}{100} + 3$	答	3.8m
	設問3の解答欄	$H = 37.9 \text{ m}$			
343	設問1 1.	1号消火栓なので、…となります。	1号消火栓で、消火栓の設置個数が2以上となるので、ポンプの吐出量は、 $150 \times 2 = 300 \text{ l/m in}$ 以上 (①) となります。		
346	解答 設問1 ①	150	300		

以上